

Q2 年間指導計画作成のポイントは？

A まず、3年間で育成を目指す資質・能力を明確にします。また、3年間を見通した計画（第1学年、第2学年及び第3学年の考え方や指導事項等を踏まえた年間指導計画）を作成します。他教科等との関連も意識しましょう。

ポイント①：3年間を見通し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にしましょう。

美術科の目標から、3年間の目標や計画を立てます。活動ありきではなく、3年間で生徒にどのような資質・能力を身に付けることができるようになるのかを、明確にしましょう。第1学年、第2学年及び第3学年で異なる目標を踏まえ、各学年の系統性を意識するようにしましょう。

学年	内容の取扱いにおける系統性
1	・基礎となる資質・能力の定着を図ることを重視し、表現及び鑑賞に関する資質・能力が幅広く身に付くようにします。
2・3	・第1学年で身に付けた資質・能力を柔軟に活用して、表現及び鑑賞に関する資質・能力をより豊かに高められるようにします。 ・第2学年と第3学年で生徒の実態が異なることも踏まえ、発達の特性に応じた題材を検討するようにします。

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」を基に作成

ポイント②：第1学年、第2学年及び第3学年で異なる授業時数を踏まえて、年間指導計画を立てましょう。

第1学年では、「A表現」(1)のア及びイを(2)と関連付けて、描く活動とつくる活動をどちらも扱います^{※1}。比較的少ない単位時間で各指導事項の内容が扱えるようにします。

第2学年及び第3学年では、学年で内容を選択でき、2学年間で全ての事項を指導することになります^{※2}。ですから、第2学年及び第3学年では、第1学年よりも一つの題材に時間をかけることができます。



描く活動……スケッチや絵、グラフィックなデザインなど平面的な表現。立体の表面に描くことも含む。

つくる活動…彫刻や工芸、立体的デザインなどの立体的な表現。

「A表現」の指導計画の作成例1

A表現	(1)アと(2)		(1)イと(2)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
学年	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年	○	○	○	○
第2学年	○			○
第3学年		○	○	

ア及びイの内容、描く活動とつくる活動の組合せで考えると、大きく4つに分かれているのですね。

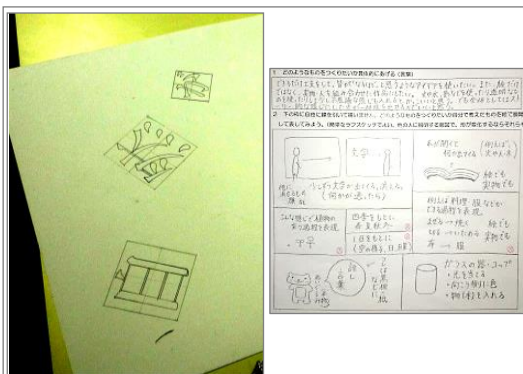


文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術編」（枠線は本研究による）

ポイント③ : 他の教科・領域等との関連を意識しましょう。

中学校学習指導要領第1章総則で示されているとおり、中学校の教育課程の編成においては、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められています。このことから、中学校美術科においても他の教科・領域等との関連を意識した授業づくりが重要だと言えます。

他の教科・領域等との関連 (例)

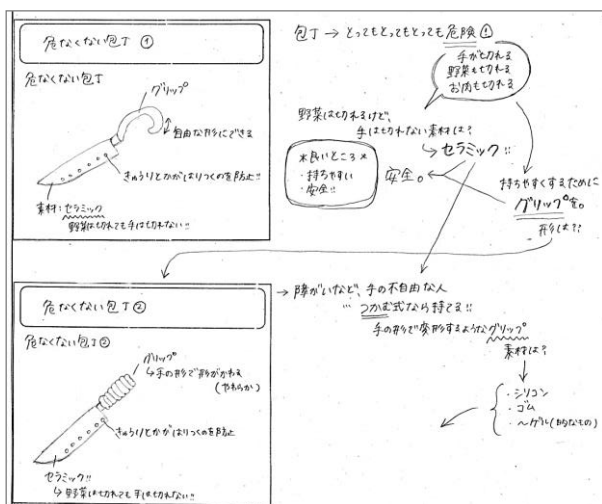


国語科との関連 (例)

- ・コピーのつくり方などの学びを、他者に思いを伝えるポスターの題材で生かす。
- ・物語を基に、アニメーションで表現する。

理科との関連 (例)

- ・生物の構造や進化の歴史などを、立体表現での主題を生み出す場面や発想を広げる場面で生かす。



技術・家庭科 (家庭分野) との関連 (例)

- ・生活上の課題や改善のヒントを基に、デザインの重要性を考える。

特別活動との関連 (例)

- ・日本美術の鑑賞を、文化発表会や体育大会での横断幕、学級旗の作成などに生かす。

美術科だけで考えるのではなく、学校の教育活動全体で他の教科・領域等との関連を図ることが、学びの深まりにつながるのですね！

